

久生十蘭

HISAO JYURAN

小説の魔術師展

2026年6月27日(土)―8月30日(日) 9時30分～17時 (最終入館16時30分)

【休館日】月曜日(7/20を除く)、7/21(火)、22(水)、8/12(水)

【入館料】一般300(240)円 高校生・市内70歳以上150(120)円 障がい者・中学生以下無料 * ()内は20名以上の団体料金

【主催】市立小樽文学館 【特別協力】沢田安史、本多正一 【後援】小樽文学舎



久生十蘭 (昭和56年頃) フランス・ニースにて
(画像提供:函館市文学館)

久生十蘭(本名・阿部正雄)は、1902年、北海道函館区に生まれました。『函館新聞』記者、新築地劇団演出助手などを経て1929年パリに遊学。演劇とレンズ光学を学び、1933年帰国。『新青年』などを舞台に多くの筆名で翻訳、コント、ユーモア小説、戯曲、探偵小説、歴史小説、捕物帳などを手掛けるようになります。主な作品に『黒い手帳』、『湖畔』、『魔都』、『顎十郎捕物帳』、『海豹島』、『平賀源内捕物帳』、『ハムレット』、『十字街』、『鈴木主水』(直木賞)、『新説・鉄仮面』、『母子像』(『ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン』紙主催、第2回世界短篇小説コンクール第一席)など。1957年、食道癌の闘病中に連載した『肌色の月』が絶筆となりました。享年55。

歿後『久生十蘭全集』(三一書房)、『コレクシオン・ジユラネスク』(薔薇十字社、出帆社)、『久生十蘭傑作選』(現代教養文庫)などで読者を増やし、2008年『定本久生十蘭全集』(国書刊行会)が刊行されたのは記憶に新しいところです。久生十蘭という奇妙な筆名は演劇の師シャルル・デュランにちなんだとも、「久しく生きとらん／食うとらん」からとも伝えられますが、この筆名は1936年『金狼』からのものでした。変幻自在の文体を駆使し、さまざまなジャンルを横断、多彩で洗練された作風を示し、しかも作品に改稿と彫琢を重ねた鬼才・久生十蘭。「小説の魔術師」の登場から90年。その生涯と作品をたどる機会となれば幸いです。



公式ホームページ



公式 X (旧 Twitter)

市立小樽文学館

〒047-0031 小樽市色内1丁目9番5号 tel.fax. 0134-32-2388